

# アウトリーチ

通信



第 29 号

2017 年 3 月 20 日発行  
年 2 回発行

神戸女学院大学音楽学部  
アウトリーチ・センター

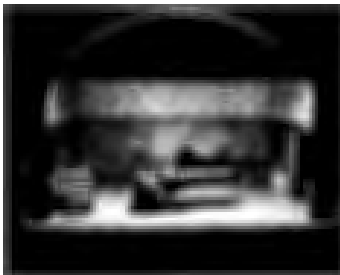
子どものための

コンサート・シリーズ

クリスマス・コンサート

「子どものためのクリスマス・コンサート」音楽からの贈り物」(子どものためのコンサート・シリーズ第四十五回)を十二月十日(土)に講堂で開催しました(十一時と十五時半の二回公演、各六十分、来場者計七百八十二名)。

出演は「音楽によるアウトリーチ」一期生の内藤雪子(ピアノ)を中心に、北野真理子(ピアノ)、田中奈津紀(ピアノ)、同二期生)、清水裕子(声楽)、



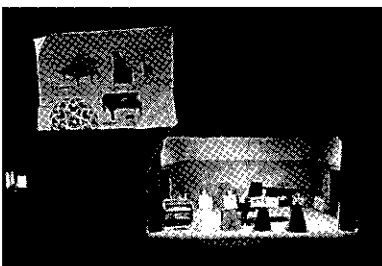
米澤明日香(声楽)の本学卒業生五名と、土井美佳(ヴァイオリン、大阪音楽大学卒業生)の計六名です。

今年のクリスマス・コンサートには三つの卒業生グループから応募があり、その中から最終的に選ばれての出演です。

「音楽からの贈り物」と題されたコンサートは、チェレスタ

独奏による「きよしこのよる」で静かに開幕し、まずはピアノ

ナートとなり、「金ぴかピアノ」「キラリン型ピアノ」「机型ピアノ」といような形のピ



連弾でオッフェンバック《天国と地獄》序曲を鮮やかに演奏しました。ドイツ語のソプラノ独唱によるリスト《愛の歌》を挟んで、再びピアノ連弾でブラームス《ハンガリー舞曲》第五番を表情豊かに披露します。

ここでピアノ・クイズのコー

アノがあることが画像も活用して紹介されました。

続いて、コンプトン作曲の愉快な《チョップステイック変奏曲》を豪快に、また軽快に奏でて満場の拍手喝采を博します。

すると、ヴァイオリンが会場後方から登場してモンティの《チャールダッシュ》で客席を惹きつけます。ヴァイオリンが登場したところで、ヴァイオリンの弓は何の動物でできているかというクイズも行われました。



次は「みんなで歌いましょう」のコーナーで、マークス作曲《赤鼻のトナカイ》を会場の子どもたちと一緒に歌いました。

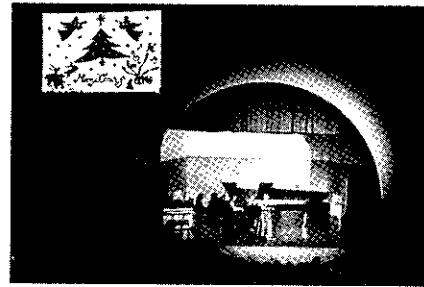
改めて演奏に戻って、アンダーソン（タイプライター）をみごとにピアノ連弾で披露して、子どもたちは釘付けです。

ここからはクリスマスにふさわしい曲の数々という構成で、讃美歌の〈アメイジング・グレイス〉に続いて、ロッシーニ作曲の〈猫の二重唱〉では、二匹



という演出で笑いを誘いました。アンダーソンの〈そりすべり〉がピアノ連弾で鞭も入ってきびきびと奏された後、クリスマスのお話をピアノ演奏と影絵入り

で朗読して、女学院らしいコンサートとなりました。



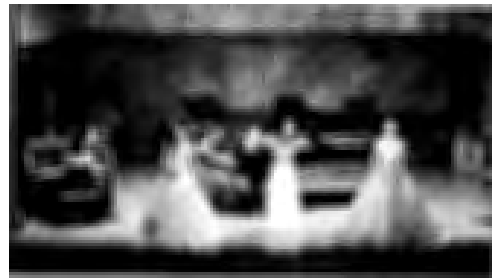
再び

演奏に戻って、

曲が、チェレスタを交えて出演者全員のアンサンブルで次々と披露され、会場の子どもたちも手拍子で参加してコンサートを締め括りました。

卒業後も弛みなく修練を積み重ねて

きた成果が存分に発揮され、た聞き応えのあるコンサートでした。



終演後には恒例の楽器体験コーナーに長蛇の列ができて、子どもたちはヴァイオリンやオルガン、ピアノやトーンチャイム、そして歌に挑戦していました。

会場アンケートではお客様から「インパクトのある曲やゆった

りした曲など緩急があり、大人も子どもも飽きることなくずっと楽しく過ごすことができた」「四歳の子どもが一時集中して楽しめる内容だった」「演奏者の技術の高さと笑顔に魅了された」「連弾がすばらしかった」「出演者の皆さんが楽しそうで、こちらまで幸せな気分になった」という声が多数寄せられました。また、「案内係の人たちの対応もよかった」「学生さんたちが親切に対応してくれて感謝です。皆さんの将来が楽しみ」といったうれしい声もあつたことを書き添えます。

（アウトリーチ・センター長

津上智実・記）



神戸市立医療センター

十月二十日(木) 十五時から  
神戸市立医療センター中央市民  
病院(神戸市中央区港島南町二  
ー一一)一階講堂にて「秋色  
音楽会(四十分)」を行いました。

(フルート・金木志織、ピアノ・  
上田仁美、作曲・信田亜美、声  
楽・高木華奈、塩見友製、特別  
出演ヴァイオリン・園諭美医師)。



ー・フォー・ユー」より「アイ・  
ガット・リズム」をピアノ連弾

今回は、季節  
に合わせて「音  
楽で感じる秋」  
をテーマとし  
ました。オーブ  
ニングには、ガ  
ーシュウイン  
作曲《クレイジ

で演奏し、曲中でお客様にも手  
拍子で参加して頂きました。次  
に、小林秀雄の歌曲《落葉松》  
をソプラノで独唱し、紅葉の秋  
を感じてもらいました。続いて、  
モーツアルトのオペラ《フィガ  
ロの結婚》よ  
り《手紙の二  
重唱》を演奏  
し、イタリア  
語での二人の  
歌の掛け合いに耳を傾けて頂き  
ました。オペラならではのお芝  
居を交えての演奏でした。

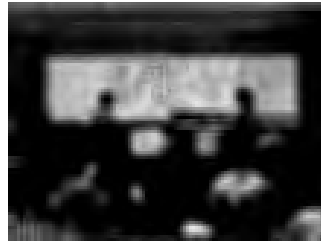


次に、動いて「運動の秋」を  
感じて頂くために、ピアノ伴奏  
で皆さんと  
一緒に《あ  
んたがたど  
こさ》をし  
ました。「あ  
んたがたど  
こさ」の  
「さ」で手を叩いたり歌ったり



しました。次にジョン・ニュー  
トン作詞《アメイジング・グレ  
イス》をピアノ、フルートと声  
楽で演奏しました。

ここで病院医師の園諭美先生  
がヴァイオリンを手にドレス姿  
で登場。エルガー作曲《愛の挨  
拶》をピアノとフルートとヴァ  
イオリンの  
アンサンブ  
ルで演奏し  
ました。訪  
問先のお医  
者様と一緒  
に演奏する



のは、私たちにとっても初めて  
の試みです。普段、病院では見  
ることのできない園先生のだレ  
ス姿にお客様も目を細めていら  
っしゃいました。

続いて、信田亜美編曲の秋メ  
ドレーを演奏。ヴィヴァルディ  
の《四季》から《秋》にのせて、  
《紅葉》《まっかな秋》《里の秋》

《どんぐ  
りころこ  
る》の四つ  
の童謡を  
メドレー  
に仕立て  
たもので  
す。最後に、  
やなせたかし作詞・いずみたく  
作曲《手のひらを太陽に》を皆  
様と一緒に歌いました。



アンコールに、美空ひばりの  
《川の流れのように》をこれも  
会場の皆様と一緒に歌いました。  
演奏中、手拍子をしたり一緒  
に口ずさんで下さったりする方  
も多く、こちらまで元気を頂け  
る演奏会になりました。

(塩見友製・記)



十一月五日(土) 十三時四十分

五分から社団法人佳生会野木病院(明石市魚住町長坂寺一〇〇

三二)で「オータム・コンサート」愛のリズミック」(四十

五分)を行いました。(ソプラノ・塩見友契、フルート・金木

志織、ヴィオラ・増田佳子、ピアノ・池上夏帆、上田仁美、中

まゆり、編曲とピアノ・信田亜美)

テーマは「愛のリズミック」。

リズミックとはミュージックとリズムという言葉掛けを合

せてひとつの言葉にした私たちの造語です。このコンサートを通じて、さまざまな種類のリズム

があることをお伝えできればという思いを胸にプログラムを創

り上げました。

まずは、エルガー作曲(愛の挨拶)(フルート、ヴィオラ、ピ



アノ)のアンサンブル演奏で開演しました。続いて、

ピアノで演奏して、フルートの楽器紹介を行いました。

ここで、服部正作曲(ラジオ体操第一)(ピアノ)をBGMに、

皆さんと腕や肩を回して身体をほぐしていききました。会場の雰

囲気が和んだところで、中村八大作曲(上を向いて歩こう)を

皆様と一緒に歌いました。

ドビュッシー作曲《小組曲》より(バレエ)

(ピアノ連弾)は、軽やかなリズムや

ゆったりとしたリズムなど



たくさんあり、最後は華やかに結ばれる曲なので、演奏時の顔の表情や手の動きにも工夫を凝らしました。

次に、あたたかくも切ない曲である小林秀雄作曲(落葉松)

(ソプラノ、ピアノ)を演奏しました。会場の皆さんも聴きな

がらその情景を思い浮かべてくれている様子でした。

ドヴォルザーク作曲(ユー

ーモレスク)(ヴィオラ、ピアノ)でヴィオラの楽器紹介を行な

たあと、ガーシュウインの《クレイジー・フォー・ユー》より

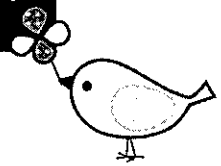
(アイ・ガット・リズム)(ピアノ連弾)を演奏しました。今ま

での曲とは雰囲気異なります、ジャズの要素が詰まった曲だった

ので、手拍子と共に盛り上がりました。そのあと信田亜美編曲

(秋のメドレー)と岡野貞一作曲(ふるさと)を皆さんと一緒に歌って、会場が一つになったように感じるこの瞬間を味わいました。

(池上夏帆・記)



十一月十七日(木) 十四時から

国立病院機構兵庫中央病院  
(三田市大原一三二四)のロビーにて「歌って感じる秋 オータム・コンサート」(四十五分)を行いました(声楽・荒木この実、塩見友架、高木華奈、ピアノ・森口真美、フルート・金木志織、編曲・信田亜美)。

今回は出演者に声楽専攻が多かったのですが、秋にちなんだ童謡をたくさん盛り込んで皆さんと秋を感じようと、歌がメインのプログラム構成にしました。



まず、ヴィヴァルディ作曲《四季》より《秋》(ピアノ)を演奏した後、ジョン・ニュートン作詞(アメ



イジング・グレイス》(フルート、声楽、ピアノ)をアンサンブルで演奏しました。

ここからは

日本の童謡で秋を感じるべく、山田耕筈《赤とんぼ》、中田喜直《ちいさい秋みつけた》を会場の皆さんと一緒に歌いました。

曲を知っている人が多く、お客様との距離が近くなったと実感しました。元気が出てきたところで、次は体を動かそうと、わらべうた《あんたがたどこさ》を歌いながらリズム遊びをしました。

動きがむずかしくなっていくに従って、次第に必死感がお客様の中に伝わりつつ、会場に笑顔が増えていきました。

次に、小林秀雄作曲《落葉松》(声楽、ピアノ)をしつとりと聴いて頂きました。ここで雰囲気

気を変えて、モーツァルト作曲のオペラ《フィガロの結婚》より《手紙の二重唱》です。クラシックも組み込んでみると、新鮮で楽しんでいる人もいれば、中にはあまりなじみがなさそうな人もいました。



この秋のコンサートのために編曲された《秋のスペシャル・メドレー》(信田亜美編曲)を出演者全員で演奏し、会場の皆さんも一緒に歌で参加してくれました。よく知られた秋の童謡ばかりでしたので、



歌いながらさらに秋を感じるころとができたと思います。最後に、岡野貞一作曲《ふるさと》を会場の皆さんと

歌いました。懐かしさのあまりか、涙を流している人も見受けられました。

アンコールとして美空ひばりのヒット曲《川の流れるように》を演奏しました。「懐かしい曲が多くてうれしかった」という声を何人もの方から頂いて、私たちもうれしく思いました。

(金木志織・記)



# 鳴尾北幼稚園

十二月六日(火) 十一時から  
西宮市立鳴尾北幼稚園(西宮市  
花園町十一、二十、園長・河崎祥  
子先生)遊戯室にて園児を対象  
とする「クリスマス・コンサー  
ト」(四十分)を行いました。(声  
楽・塩見友袈、糸田麻里絵、フ  
ルト・金木志織、ピアノ・松  
本祐佳、金丸史奈)。

「季節にびつ  
たりのクリス  
マスの曲を通  
して、音楽を  
聴いて、歌っ  
て、触れよ  
う!」をテーマとして、ソロ曲  
やデュオ曲、アンサンブル曲を  
多く取り入れ、楽器の音色の違  
いを知ってもらえるようにプロ  
グラムを考えました。

まず、モーツァルト作曲(ト  
ルコ行進曲)で元気よくコンサ



ートを始めました。続いて、同  
じくモーツァルト作曲(きらき  
ら星変奏曲)をフルートで演奏  
しました。聴きなじみのある曲  
で、園児たちは口ずさんで聴い  
てくれました。次に声楽の独唱  
でシューベルト作曲(笑いと涙)  
をドイツ語で歌いました。なじ  
みのないドイツ語での歌唱でし  
たが、笑顔や泣き顔のジェスチ  
ャーをつけて演奏したので、園  
児たちも集中して聴いてくれま  
した。続いて、ピエール・ルイ  
ギ作曲(バラ色の人生)を日本  
語で独唱しました。甘い歌声に  
園児たちもうっとりして聴いて  
いる様子でした。出演者のソロ  
曲が出揃っ  
たところで、  
ソロとアン  
サンブルと  
の違いを説  
明し、ハロ  
ルド・アー



に聴いてくれました。



アクティビ  
ティとして小  
林亜星作曲(あ  
わてんぼうの  
サンタクロー  
ス)の歌詞に皆  
で振付を考え  
て、歌って動いて遊びました。  
園児たちが考えてくれた振り  
事前私たちが考えていた振り  
とを取り混ぜ、少しむずかしい  
振りにもチャレンジしました。  
皆とても元気よく、楽しそうに  
体を動かしてくれたので、うれ  
しかったです。

レン作曲(虹  
のかなたに)  
をアンサンブ  
ルで演奏しま  
した。曲の構  
造を先に説明  
することで園  
児たちは熱心

後半からは季節に合ったクリ  
スマスの曲として、フレッド・  
クーツ作曲(サンタが街にやっ  
てくる)を日本語と英語で二重  
唱しました。息がぴったり合っ  
た二重唱に園児たちは聴き入っ  
ていました。最後はジョニー・  
マックス作曲(赤鼻のトナカイ)、  
ピア・ポント作曲(ジングル・  
ベル)、いずみたく作曲(手のひ  
らを太陽に)を皆で歌い、クリ  
スマス・コンサートの楽しい締  
めくりとしました。

幼稚園でのアウトリーチは今  
回で二度目ですが、幼稚園によ  
って雰囲気や園児の様子はそれ  
ぞれ異なり、戸惑いもありまし  
た。でも、その戸惑いをも楽し  
んで、音楽を通して子どもたち  
と楽しく触れ合うことができました。

(金丸史奈・記)

# 雲雀丘学園小学校

十二月九日(金)、雲雀丘学園

小学校(宝塚市雲雀丘四の二の一)音楽室で、四年生の四クラスを対象としたアウトリーチ実習(各四十五分)を行いました

(ピアノ・池上夏帆、中まゆり、信田亜美、上田仁美、声楽・塩見友袈、高木華奈、ヴィオラ・増田佳子)。

「天才! ? 神の子! ? 聴いて学ぼう、モーツアルト!」をテーマに、モーツアルトについての豆知識を作品の演奏に織り交ぜたプログラムを行いました。

最初に、各人の身長と性格を含めて出演者を紹介し、児童に

親近感を持つ

てもらえるように工夫しました。

まず、オペラ《フィガロの



結婚》より《序曲》をピアノ連

弾で演奏し、モーツアルトとは

どんな人なのかを話しました。

モーツアルトの身長などのクイズを出して、フロアとのコミュニケーションを図りました。

同じく《フィガロの結婚》よ



り《手紙の二

重唱》を振り

つきで演奏

した後、モー

ツアルトも

変奏曲に取

り上げたフ

ランス民謡《きらきら星》を使

用して、児童と一緒に合奏をし

ました。子どもたちは一生懸命

にリズムを考え、旋律を練習し

て参加してくれました。

《バターつきパン》をピアノ

独奏で、《交響曲第四十番》第一

楽章をピアノ連弾で演奏し、幼

少期と晩年のモーツアルトの作

品を通してピアノの奏法につい

て説明しました。次に《アヴェ・ヴェ・ヴェルム・コルプス》(声楽二重唱+ヴィオラ)を演奏しました。二、三時間目には、音楽教諭の岡村圭一郎先生もバリトンで参加して下さったので、三重唱+ヴィオラのスペシヤル・バージョンになりました。児童はいつもの先生とは違う姿を見て、新鮮に感じたようです。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

児童はいつもの先生とは違う姿を見て、新鮮に感じたようです。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。



て説明しました。次に《ア

ヴェ・ヴェルム・コル

プス》(声楽

二重唱+ヴ

ィオラ)を演奏しました。二、

三時間目には、音楽教諭の岡村

圭一郎先生もバリトンで参加し

て下さったので、三重唱+ヴィ

オラのスペシヤ

ル・バージョンになりました。

児童はいつもの先生とは違う姿を見て、新鮮に感じたようです。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。



プログラムの構成の練り直しなど、当日に至るまで様々な苦労がありました。その苦労を皆で乗り越え、本番はスムーズに演奏することができました。四クラスそれぞれに特徴があり、私たちも楽しく演奏することができました。今回の授業はこれからの私たちの演奏活動に役立つものとなりました。

(信田亜美・記)



## 子どものための 音楽作りワークショップ

九月二十四日(土) 九時半から十六時まで、第七回「音で遊ぼう!子どものための音楽作りワークショップ」を本学音楽館ホールで開催しました。参加は

学生十二名、卒業生二名、学外者二名、子ども二十九名(小学生一年生十二名、二年生八名、三年生七名、四年生二名)の計四十五名でした。これは英国ギルドホール音楽院で培われて来たクリエイティブ・ミュージックの優れたプログラムに学ぶ形で二〇〇七年にスタートしたもので、今回が七回目です。

同校リーダーシップ修士課程を修了後、世界で活躍する音楽家二名(アメリカ人のチェロ奏者ナターシャ・ジェラジンスキとイギリス人のフルート奏者デ

ッタ・ダンフォード)を日本に招聘し、本学卒業生で同課程修了の東瑛子もリーダーとして参加して、九月二十日から五日間、学生対象の「音楽作りワークショップ特別研修」を行い、その仕上げとして最終日に近隣の子どもたちの参加を得て実施したものです。

この研修は「三大学(本学音楽学部、東京音楽大学、昭和音楽大学)連携」に発するプロジェクトの一環で、誰もが持つているクリエイティブな力を引き出し、共に音楽を生み出していくために必要な視点と方法を学んで実践力を身につけることを目的としています。



今年のワークショップは葛飾北斎の浮世絵「富嶽三十六景」

を素材として、各グループがそれぞれ一枚の浮世絵からお話や情景や音を思い浮かべて旋律やリズムを構



想し、組み立てていくという方法で進められました。

当日はアイスブレイクも学生たちに任されて、自分たちで考案したワークをリードして充実した感覚を味わうことができました。次に、四グループに分かれて、各々浮世絵に基づいた歌や曲を考案しました。それらを互いに披露し合った後、四つを組み合わせて三十分ほどの曲にまとめ、お迎えの保護者の前で披露しました。

保護者アンケートでは「初めて発表会を拝見して、レベルの高さに驚きました。先生方や学生たちの指導のお蔭で、一日で



音楽づくりが子どもたちもできるなんてすばらしいと思いました。

音で自由に表現する力があると教えられました」といった声が寄せられました。

当日は、外国人講師と日本人参加者とを結ぶべく、大学院文学研究科通訳コースの院生が逐次通訳でサポートしてくれたことを記して感謝します。

(津上智実・記)



## 履修生紹介

四年生(十四期生八名)からの

メッセージ

荒木 この美(音楽)



ホールでのコンサートが、お客様に自分の声や音楽を「魅せる」場だとしたら、アウトリーチは、音楽というツールによって自分と聴いて下さる方とのコミュニケーションを生み出す場なのだと私は考えます。音楽を通して聴いて下さる方一人一人と繋がるうとする私の強い思いは、気がつく

と逆に、音楽を通して人間の強さも弱さも、そして生きる力をも教えてくれました。通常のコンサートとは違い、音楽面だけでなく人間としても成長させてくれるアウトリーチは、私にとってかけがえのないものであり、人生の糧となりました。

池上 夏帆(ピアノ)



三回生の「音楽によるアウトリーチ(講義)」受講時に、「演奏家」よりも「パフォーマー」で

ありたいという目標を自分の中で定めていました。この目標達成のため、仲間にリハーサルや合わせの時間等で助けてもらいました。「魅せる」ことは演奏中に限らず話す際にも必要で、私にとってむずかしい分野で苦労しましたが、この経験がなければ演奏する全ての場面で「魅せる」ということを意識しなかったのではないかと言っても過言ではありません。ぜひ後輩にもアウトリーチの授業を通じて自分自身の糧となるものを得てもらいたいのです。

金木 志織(フルート)



アウトリーチの授業に興味があつて入学したので、少しでも自分の身になるように

に可能な限り参加しました。数多くの実習に参加することで、場所それぞれで求められるものが違い、臨機応変な対応をできるかどうかが重要だと学びました。音を奏でるにも、どんな音色を聴かせたいのかで、と

ても悩みました。何よりも音楽を心から楽しむことのすばらしさに改めて気づかされました。曲数をこなしたり、司会などやることが多くて大変ですが、確実に自分のためになります。私は心の底から履修してよかったと思います。

森口 真美(ピアノ)



アウトリーチの実習を通して、コンサートを一から考えて作り上げる大変さを学

びました。自分だけでなく、相手の立場になつて客観的に物事を見ることは非常に大切です。聴いて下さった皆様が、私たちの演奏で笑顔になったり涙を流したりしている姿を見ると、何か一つでも伝わったものがあるのだなと音楽の力を改めて感じます。この経験を活かして、今後も様々なアウトリーチ活動を行いたいのです。音楽的にも人間的にも成長できる貴重な授業なので、ぜひ皆さんにも履修してほしいと思います。

中 まゆり(ピアノ)



この授業を振り返り、思い出すのは履修生同士で考えを出し合い、役割を持つて

協力し合った時間です。私たちはまず聴いて頂く方々の年齢層や状況をふまえ、「どうしたら楽しんでもらえるかなあ」と伝え方やプログラムを模索していきました。その中で、それぞれの意見がうまく組み合わせられ、一人では思いもしないようなアイデアが生まれたりします。そんな風に試行錯誤して届けるアウトリーチは、音楽を私たちに伝えることができる場でもありました。大変でしたが、ここでき得られない経験で溢れ、履修してよかったなと思います。

塩見 友装(音楽)



アウトリーチ実習を履修してみると、思っていたよりもハードで苦しい時もありました。しかし訪問先の園児や患者さんたちの笑顔や、あたたかい言葉をたくさん頂き、演奏者である私たちまで元気になれる授業でした。



普段の演奏ではあまり意識しない多くのことを、この授業では学ぶことができました。私は幼稚園、病院、小学校と数多くのアウトリーチに参加して、改めて音楽のすばらしさや、人と人の心を繋ぐことのできるツールであることを再認識しました。この授業で学び得たものを今後の人生でも生かしていきたいです。

### 高木 華奈 (声楽)



私は、アウトリーチが何かも分からず、病院や学校など学外で演奏ができて、自分のスキルアップ

ができればいいなという想いで履修しました。四回生になると実習が始まり、まさかの七夕コンサートではリーダーになって、舞台進行表や人間関係など本当に大変でしたが、達成感は大きく、病院や学校など学外にもたくさん行かせて頂き、演奏だけでなくお話の大切さなど、演奏家として生きていく上で大切なことを学ぶことができました。履修するか迷っている人はぜひ！必ず充実した学生生活が送れます！



### 上田 仁美 (ピアノ)



私にとってアウトリーチは、「音楽をどのように伝えるか」を考えさせられる貴重な時間でした。どのようなプログラムにすれば、どのような演奏をすれば、私たちの伝えたい「音楽」を届けられるのか、真剣に悩みました。大変なことともたくさんあったけれど、それ以上に得るものがありました。演奏しに行くたびに、言葉では表せないほどの思いが溢れ出るのです。音楽の力の凄さを感じるので、これは実際に自分が経験しなければ感じることはできないと思います。ぜひみなさんにもこの感情、そして音楽のすばらしさを実感してほしいと思います。

な時間でした。どのようなプログラムにすれば、どのような演奏をすれば、私たちの伝えたい「音楽」を届けられるのか、真剣に悩みました。大変なことともたくさんあったけれど、それ以上に得るものがありました。演奏しに行くたびに、言葉では表せないほどの思いが溢れ出るのです。音楽の力の凄さを感じるので、これは実際に自分が経験しなければ感じることはできないと思います。ぜひみなさんにもこの感情、そして音楽のすばらしさを実感してほしいと思います。



### 聴講生紹介

#### 金丸 史奈 (ピアノ)



音楽をただ一方的に演奏するのではなく、音楽の中で実習先の方々といかに同じ

気持ちで同じ時間を共有するか、そのために実習先ではどんな音楽が求められているかを考え、何度も練習を重ねて本番に臨みました。実習を重ねるごとに視野も広がり、もつとよいコンサートにしようと音楽と向き合うようになりました。実習先の方々の笑顔を見るたびに、音楽で繋がることのできる喜びを実感しました。大変なことではありますがありますが、それ以上に得るものが多く、音楽的にも人間的にもたくさんの引き出しを増やしてくれる授業です。

#### 信田 亜美 (作曲)



いろんな場所、音楽を様々な人と共有することが通して多くの人を幸せな気持ちにすることが出来る！という単純な気持ちでこの授業に参加することを決めまし

た。その思いの通り、実習はとても楽しく、多くの人と音楽でつながることができました。練習やプログラム構成を考える中で、音楽に対する考え方も変わっていきました。音楽構成やバックグラウンド、演奏だけでなく話し方や立ち居振る舞い、すべてを実習を通して学ぶことができました。一人では見つけることができない音楽性を身につけることができました。ぜひ皆さんにも履修してもらいたいです。

#### 増田 佳子 (ヴァイオリン)

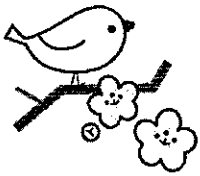


アウトリーチという授業を通して、私は「音楽の力」を考えることができました。音楽には時によって様々な感情にさせる力があります。そんな音楽の力をこの社会で活かすためには何が必要で何ができるかを学び、その上で私は記憶に残る演奏がしたい、愛する音楽を届け、一人一人の心に音の花を咲かせたいと思います。それには音楽を表現し魅せるということ、いかなる時も一方通行ではなく客観的に自分を見つめ、周りに目を向けて心を通わせる必要があると実感しました。皆さんもこの授業を通して多くの出会いを大切に、音楽を届けてください。

田中 奈津紀さん(二期生)



アウトリーチを改めて学び直したいという思いから、聴講生登録をして参加しました。履修生の活動を通じて、アウトリーチについて多くの新しい視点を得ることができ、可能性が無限にあることを実感しました。学生の切磋琢磨する姿から伝わってきたのは、音楽を介して相手(聴き手)に寄り添いたいという思いの強さです。その真摯な姿勢がさまざまな演出や工夫に表われ、どのコンサートも学生それぞれの個性が溢れたすばらしいものでした。聴き手の笑顔や言葉を力に、これからも益々活躍してほしいと思います。一年間、ありがとうございました。



「音楽によるアウトリーチ(講義)」

履修生(二回生十四名)

ピアノ

城ヶ崎彩佳、金子亜美、松本祐佳

三谷彩矢香、永田真由子、太田春菜

笹川まき子、渡部里紗、山下記代

声楽

糸田麻里絵、高橋輝、種村ひかり

唐津理央、上野緑

聴講生 山口美加子(総合文化学科四年生)



アウトリーチ要員からのメッセージ

谷田 奈央さん(五期生)



アウトリーチ要員として二年目のシーズン

が終わろうとしています。今年の四回生は改善点もしっかり指摘し合える、信頼関係のできたすばらしい学年でした。自分の出演しない実習でも、仲間の実習リハーサルから自分への「気づき」を多く吸収していたように思います。私も自身も学生たちの取り組みから学ぶことが多く、毎週楽しみに岡田山へ向かっておりました。

卒業後それぞれの道へ進む彼女たちですが、演奏はもちろん、お話の仕方や一つの公演に取り組む姿勢など、アウトリーチでの経験がこれからの新生活で役立つ時が必ずあると思います。

次号の予告

「子どものためのコンサート・シリーズ」開設十五周年記念「子どものためのスペシャル・コンサート」室内オーケストラで聴く動物と音楽」を二月二十五日(土)十四時から講堂で開催しました。指揮ザビエル・ラック、演奏「十五周年記念スペシャル室内オーケストラ」で、ビゼー《カルメン》間奏曲、サン＝サーンス《動物の謝肉祭》、プロコフィエフ《ピーターと狼》を演奏し、最後に会場の子どもたちと一緒に《山の音楽家》を歌いました。「アンサンブルくれよん」によるアクティビティ、動物の折紙(制作は英文科の立石浩一先生)の映写、ナレーションを交えての公演で、多くのお客様をお迎えしました。その模様は次号の『アウトリーチ通信』で報告します。ので、どうぞご期待下さい。

## 2016年度 実習歴

- 6月 2日 (木) 西宮市立門戸幼稚園アウトリーチ  
7月 2日 (土) 子どものためのセタコンサート(シリーズ第 44 回)  
9月24日 (土) 第7回「音楽で遊ぼう！子どものための音楽作りワークショップ」  
10月20日 (木) 神戸市立医療センター中央市民病院アウトリーチ  
11月 5日 (土) 野木病院アウトリーチ  
11月17日 (木) 国立病院機構 兵庫中央病院アウトリーチ  
12月 6日 (火) 西宮市立鳴尾北幼稚園アウトリーチ  
12月 9日 (金) 雲雀丘学園小学校アウトリーチ  
12月10日 (土) 子どものためのクリスマス・コンサート(シリーズ第 45 回)  
2月25日 (土) 子どものためのスペシャル・コンサート(シリーズ第 46 回)  
3月 6日 (火) 大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター・アウトリーチ  
3月 9日 (木) 国立病院機構 刀根山病院アウトリーチ

## 音楽をお届けします！！

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。  
大学やホールといった従来の枠にとらわれずに、社会のさまざまな場にてききな音楽のプログラムをお届けします。

♪小中学校へ：総合的学習支援プログラムとして、  
子どものための楽しい体験学習を！

♪病院や美術館へ：催しの趣旨に沿った手作りの音楽  
プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター (月～金 10:00～15:00)  
〒662-8505 西宮市岡田山 4-1 TEL: 0798-51-8584 FAX: 0798-51-8551  
E-mail: outreach@mail.kobe-c.ac.jp http://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/

## 編集後記

「音楽によるアウトリーチ」が開講されて15年、記念の年となりました！（寺澤）

行事が盛り沢山の1年でした。卒業生の皆さんのご活躍を祈っております♪（森）

たくさんの方に支えて頂いた1年でした。来年度も学生と一緒にがんばります！（増田）

今年の4年生は互いに助け合ってとてもよいチームワークでした。その力をこれからも大切に！（津上）